

環境への配慮

ニチレイグループでは、グループ環境方針、グループ生物多様性方針を策定し、3つの重点課題に取り組んでいます。

グループ目標

地球温暖化防止の2015年度目標(2013年度~2015年度)

電力使用量 : 2009年度比 5.5%削減
 燃料由来CO₂ : 2009年度比 7.5%削減

* 国内の事業所および所有車両で使用するエネルギー
 * 比較可能な期間内継続稼働事業ベース(廃止・新設等による増減は含まない)

持続可能な資源循環の推進

食品工場、物流センターから排出される廃棄物リサイクル率 99%の達成・維持

中期目標と実績

重点課題1：地球温暖化防止

気候変動の影響を大きく受ける“食”に関わる企業グループとして事業所におけるCO₂排出削減に取り組んでいます。

中期目標(2013年度~2015年度)は、2011年の震災以降、火力発電の増加により電力排出係数が大きくなり、電力使用量を削減してもCO₂排出量が減少するとは限らない状況となっています。そのため、ニチレイグループでは、電力使用量そのものと燃料由来CO₂排出量の2つに分けて削減目標を設定しました。

対象は、基準年である2009年度と直接比較が可能な事業所としています。

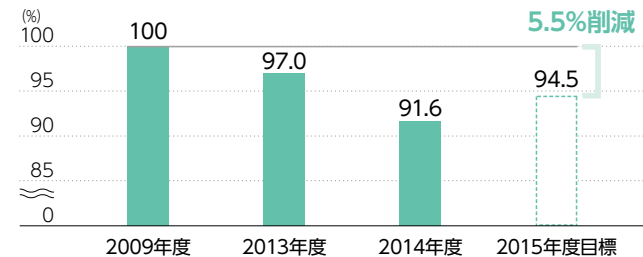
新設事業所については、省エネ設備導入を推進するとともに、事業会社の状況に合わせて個別に目標を掲げています。

2014年度の既存事業所における電力使用量は、各事業所でLED照明の導入推進などの設備更新や機器の効率運転などの運用見直しなどに取り組んだ結果、2013年度比で5.6%、2009年度比で8.4%削減しました。また、2014年度の既存事業所における燃料由来CO₂排出量は、食品工場のボイラー燃料転換などが成果を上げ、2013年度比で2.9%、2009年度比で8.4%削減しました。

2014年度のグループCO₂排出量は、電力排出係数の上昇、事業所の新設などにより2009年度比で25%増加しました。しかしながら、係数を固定して比較した場合は、2%の削減となっています。

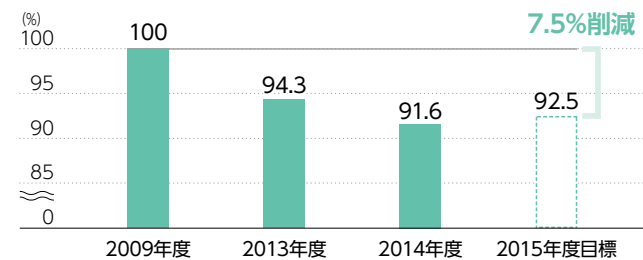
さらに、ニチレイグループではサプライチェーン全体での排出削減に取り組み、社会全体での排出抑制に貢献していきます。

既存事業所電力使用量



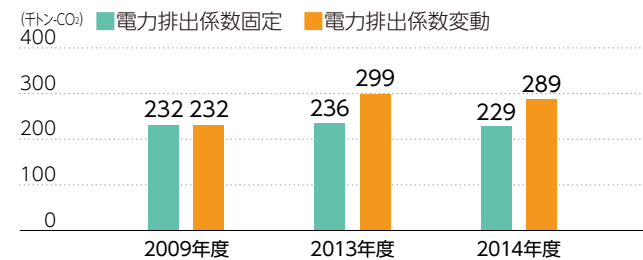
1 2009年度を基準年(100%)としている。
 2 新設事業所を含む総電力使用量は、2009年度: 446GWh、2013年度: 455GWh、2014年度: 439GWh

既存事業所燃料由来CO₂排出量



1 2009年度を基準年(100%)としている。
 2 新設事業所を含む総排出量は、2009年度: 41,390トン*、2013年度: 41,090トン*、2014年度: 41,350トン
 ※昨年度報告値を一部修正しています。

ニチレイグループCO₂排出量の推移



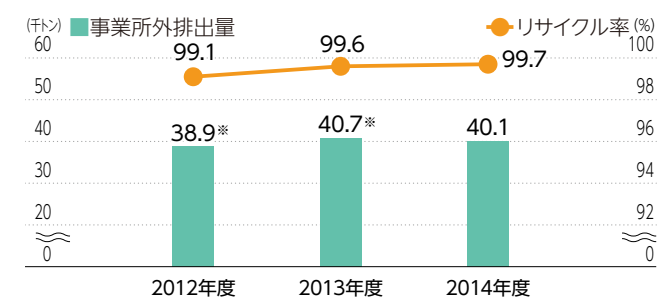
1 電力排出係数固定: CO₂排出量算定のための算出係数を2009年度に固定した場合
 2 電力排出係数変動: 上記を地球温暖化対策の推進に関する法律にもとづき変動させた場合

重点課題2：持続可能な資源循環の推進

限られた地球上の資源をできるだけ継続的に利用していくため、廃棄物の発生抑制、再利用、再資源化に取り組んでいます。また、“食”に関わる企業グループとして地球からの恵みである生物資源を効率的に無駄なく使うこと、使い切ることができなかったものも飼料や肥料などに再利用し循環させていくことにも注力しています。

各事業会社が、廃棄物の排出量削減およびリサイクル率の

ニチレイグループ事業所外排出量とリサイクル率



※昨年度報告値を一部修正しています。

維持・向上を継続推進し、2014年度の事業所外排出量は40.1千トンとなり、リサイクル率は99.7%となりました。現在、最終処分されている廃棄物には、紙くずなど地域によって事業系一般廃棄物の処理場が単純焼却している場合や、種類や量などによってリサイクル先が見つからない場合などありますが、発生の抑制も含めさらなる削減に取り組んでいきます。

重点課題3：自然との共生

ニチレイグループの事業は、豊かな地球からの恵みによって成り立っており、これは自然界の多様な生態系や生物種などによって維持されています。あらためてその重要性を再認識し、さらに取り組みを強化していくため、2010年度にグループ生物多様性方針を策定しました。今後も、原材料調達における周辺環境や生態系への配慮、食材を余すことなく使い切る、所有地周辺を中心とする自然保護活動、自然の大切さを伝えることなどに取り組んでいきます。

マテリアルバランス

INPUT

原材料

161千トン

| | |
|------|--------|
| 原料 | 145千トン |
| 包装資材 | 16千トン |

エネルギー

4,983千GJ

| | | | |
|------|----------------------|-----------|---------|
| 購入電力 | 438,673千kWh | LPG | 4,487トン |
| 重油 | 3,314千ℓ | ガソリン(社有車) | 588千ℓ |
| 灯油 | 189千ℓ | 軽油(社有車) | 1,144千ℓ |
| 都市ガス | 5,951千m ³ | 太陽光発電 | 243千kWh |

水

3,781千m³

| | |
|---------|----------------------|
| 上水 | 1,276千m ³ |
| 工業用水 | 638千m ³ |
| 地下水(井水) | 1,867千m ³ |

OUTPUT

廃棄物

| | |
|------------------------|---------|
| 事業所外排出量 | 40.1千トン |
| リサイクル量 | 40.0千トン |
| 最終処分廃棄物量 ^{*1} | 0.1千トン |

*1 事業所外に排出される廃棄物のうち、直接処分場に埋立てられる廃棄物およびエネルギー利用などがなく単純焼却される廃棄物の量

大気系

| | |
|-------------------------------|--------------------------|
| CO ₂ ^{*2} | 289,396トンCO ₂ |
| SOx ^{*3} | 7トン |

*2 地球温暖化対策の推進に関する法律にもとづき算出
*3 測定実施のばい煙発生施設。車両由来含まず

水系

| | | | |
|-----------|----------------------|-------------------|------|
| 排水 | 2,295千m ³ | 排水負荷量 | |
| 下水道 | 1,453千m ³ | BOD ^{*4} | 52トン |
| 公共水域(河川等) | 841千m ³ | COD ^{*4} | 16トン |

*4 排水濃度測定を実施している場合のみ排出量を算出

1 2014年度実績集計対象事業所はWebに掲載しています。
 2 四捨五入の影響により合計数字が異なる場合があります。